

むさしの FM 将来ビジョン 30 周年を迎えて、これからの羽ばたき

むさしの FM（株式会社エフエムむさしの/平成 6 年 10 月 19 日設立）は、平成 7 年 3 月 28 日に全国で 15 番目、東京地区では初のコミュニティ FM 局として開局しました。

開局当初より、武蔵野市とその周辺をメインエリアに、エリア人口 88 万に対して、市民生活の利便性の向上、災害時の情報発信など、地域の活性化に向け多様な情報を発信しています。

■ むさしの FM 30 年の活動

○多様な生活情報・地域情報の提供

武蔵野・三鷹両市からの市政情報に加え、警察署・消防署・法務局など行政機関、国際交流協会、文化生涯学習事業団、観光機構など関係団体、商工会議所、商店会連合会など商業団体等、多くの機関と連携し、多様な生活情報・地域情報の発信を続けてきました。

○市民参加による番組作り

むさしの FM 市民の会の協力による番組作りを続けてきました。市内の多様な人材をゲストに迎える「発信！わがまち・武蔵野人」は、令和 3 年 5 月に放送 1,000 回、市民が身近な話題を提供する「むさしの today」は、令和 6 年 5 月に放送 7,000 回を迎えました。

○他エリアとの連携

ルーマニア・ブラショフ市と国際二元中継放送、新潟県中越地震特別番組など武蔵野市の友好都市と連携した番組のほか、他コミュニティ FM との連携、地元スポンサーとの協力による長野県の観光情報など、他エリアと連携した番組を放送してきました。

○災害時の拠点としての活動

災害時の緊急情報の発信拠点として、開局直後に武蔵野市と「災害時における緊急放送に関する協定書」を締結、日常的な安全情報を提供するとともに、台風・地震等の緊急情報提供や不発弾処理の様態を実況放送するなど、いざという時のメディアとして対応を進めてきました。平成 23 年の東日本大震災発災時には錯綜する計画停電に関する情報を市の対策本部と連携して即座に放送するなど災害時の地域メディアとしての役割を担いました。

○情報発信手法多様化への対応

開局時の送信出力 1W を段階的に強化、平成 7 年 9 月には 10W、平成 13 年 5 月には 20W へと増力しました。インターネットへの対応も進め、平成 21 年 4 月から podcast による音声データの公開、平成 23 年 10 月からはサイマル放送によるインターネットラジオサービスを開始しました。また、平成 23 年から活用を開始した X（旧ツイッター）では、日々の番組情報を発信しています。

○安定した経営

開局当初から多くのスポンサー等の支援を得て、安定した経営を続けてきました。

■ 開局 30 周年を迎えてのビジョン

開局 30 周年を迎え、今後の活動方針をビジョンとして定めます。

街・人・社会とつながり
多彩な情報を発信していきます

■ 今後の展開

(1) 情報発信力の強化

○長期継続番組の安定的放送と質の担保

「マイシティむさしの」等、武蔵野市関係の番組並びに継続して放送をしているスポンサー提供番組の品質向上を担保しながら、信頼感と親しみのある地元メディアとして安定的に運営していきます。

○ポッドキャスト番組などインターネット環境等に対応したコンテンツの開発

ラジオとインターネットとの融合、ラジオと SNS との連携などの取組みを進め、ラジオ放送を社会環境にマッチングさせ、さらなる聴取者層の開発を目指します。

○ターゲット戦略を活かした番組制作

「子どもおやすみラジオ」のような、ターゲットを絞った番組制作を進め、ターゲットを活用して、番組表配布先の拡大など番組の広告価値の向上を図ります。

(2) 地域連携の推進

○多様なゲスト参加によるコミュニティ放送としての充実

地域をつなぐコミュニティ放送局として、地域活動、音楽、演劇、映画、スポーツ、読書、多文化共生、行政情報など、有名無名を問わず多様なゲストを迎え、さまざまな声をお伝えしていきます。

○地域連携のさらなる拡充

地元の音楽・映画関係者などとの連携を深め、その知見を番組づくりへ活かしていきます。また、共有する課題の解決に向けて、近隣コミュニティ FM 各局との連携を深めていきます。

○イベント事業等放送以外の事業収入の拡大

放送により慣れ親しんだパーソナリティや、番組制作により蓄積した技術力・制作力、専門性の高いスタジオシステムを活用し、イベント制作や司会・音響技術など、イベント事業などを積極的に受注し、地域との関りを深めていきます。

(3) 災害時等の緊急放送体制の整備

○災害時等緊急時に向けた体制整備

日頃からの防災・安全情報の提供とともに、緊急時円滑に業務を実施するため、市と連携した訓練への参加や、武蔵野市役所防災安全センター内緊急放送室の定期的な点検など体制整備を進めます。

○災害時における情報発信媒体としての認知度の向上

ラジオは大規模災害や停電によりインターネットが途絶した時にも役立つことができる媒体です。特に若い世代ではラジオとの関りも変化していることから、日ごろから多くのリスナーを得られるよう聴取習慣の啓発を図っていきます。

(4) 放送環境の整備と人材育成

○計画的な機器更新による放送環境の整備

放送関係機器は一定期間での更新が必要となります。武蔵野市との連携により、5年程度を見通した更新計画を整備し、放送環境の安定化を図ります。

○武蔵野市のカウンターパートナーとしての提案力の拡充

交通対策のPRの中心が駐車場・駐輪場対策から、自転車事故への対策に変わっていくように、市政課題は変化し、新たな課題も生じています。こうした新たな市政課題等について、放送事業を活用して解決に寄与できるものを検討し、市に提案していきます。

○技術革新・変化への対応

AI技術の進展など多様な技術革新が進んでいます。放送技術・業務管理などにおいても、新たな技術を活用し、効率的・効果的な業務運営を進めていきます。

○営業力の強化と人材育成

社員ひとり一人が、公の情報提供を発信する使命に加え、営業マインドも持ち、むさしのFMの強みをPRしていくとともに、放送技術にとどまらない幅広い知見を広げ、よりよい番組づくりに取り組めるように能力開発を進めていきます。

令和7年3月

株式会社エフエムむさしの